

# せんだい寸景

NO2 2004年9月

発行：じっかい電腦事務局

## 茶畑へのみち 連坊ぶらぶら

**連**坊小路の西の入り口清水小路との十字路南東角に達磨さんが鎮座している。菓子舗「五橋小新堂」が開業のさい鬼門除けにおいたというから座ること84年、行き交う人々をみてござる。さて達磨さんにあいさつしたらゆると茶畑へとまいるうか。



東に伸びる連坊小路は延長およそ1Km、藩政時代沿道には寺院が軒をつらねその先の木下には薬師堂の大小の僧房が何十とひしめき参詣者の往来でたいそうなにぎわいだったそう。往古のままの幅5mほどの通りはいま、一高交番から「東街道」までが旧前どおり残るだけで、大半は20mの大通りに変身、陸橋も立派に架け替えられた。そのうえを新幹線がまたぐ。さあ陸橋



陸橋付近 上を新幹線が走る④連坊交番、奥に一高の桜並木⑤をわたると二女高だ。

**宮**城県では高校再編問題が進行中。統合で学校数を減らすすべて共学にする。郡部からはじまりいよいよ仙台にかかったところで二高同窓会がかみついた。断固「反対」である。ひところテレビなどが特番を組んだ。一億総評論家古い言葉を思い出した。どれもこれもしたり顔で論じる。同時に「TVで物言うやからの言に中身はない、すばやくそれらしいことをよどみなく述べる - だけだ」というだれかの言葉も。ずいぶん見知った顔が「へらへら」やってたな。ところで一高同窓会はどうする？一と二、彼我の学校間格差はここでも遺憾なく露見するで勝負にならないとみた。

宇野元校長にお尋ねしたことがある「共学を迫られたらいいかに？」25年も前のことだ。先生の回答は明快かつ大胆なものだった。ここでその内容にはふれない、「格差」が決定的となったいまではせんないことだ。肝の据わった宇野さんに畏敬のねんをあつくするばかりだ。二女高は「中、高一貫の共学」を選択したようだ。一高が消える さあどうします。



いざ定期戦。連坊小路を「戦場」に向かう応援団(右から国分団長、武田、尾崎。ほらやっぱりカレは真ん中だろ！)

**通**りはやがてゆるい下り坂となり一高交番があらわれる数年後一高脇も拡幅され交番も移転する。そのとき桜並木が消えるのだが消えてから「惜しかった」の大合唱、これがわが民の定番だ。かつての「門前町」で残ってるのはあづま楼ただ一軒のみ。あさひや、貸し本屋、大判焼、ささや、猪俣下駄屋、せんべい屋、オガタ床屋、交番向かいの煙草屋、医院、銭湯 - すべてがきれいさっぱりと消えた。だれか、この界隈のムカシの地図をつくってみないか。何千の文字より一枚の地図がどれだけ多くを語りかけることか。

一高構内でわれわれ在校当時からのものはわずかに旧講堂玄関だけ。写真ではその妻飾りだけをもらい

ただ。そして卒業記念に植えたいちよう(クラス毎に計7本植えた)が3本残っている。ふぞろいの妙な形、これは目茶目茶な管理のせいで乱暴にも幹が途中で切られながらも生き残った。右端のがまあまあ、上部を切り取られながら幹周りは2mを越す。あわせて写真で紹介しておく。

ご当地TVの紹介で人気の一高水泳部(ウォーターボーイ)にふれたかったが紙面が尽きた。地下鉄茶畑駅のことも。

いよいよ五月の声を聞くころ「ガラーン ガラーン」なつかしい足駄の音が通りに響く「ああ定期戦か」応援団諸君



記念植樹のいちようのうち残った3本



といっても近年、団員は数人しかいないらしい - ガムカシの姿で歩いてゆく。武田儀、東野、永野忠……死んだ応援団員の顔がかさなり笑い声がきこえてくるようだ。